

# Senior Community

## 「介護の倫理」を問う!

巻頭インタビュー

いま介護サービスは経営倫理と福祉倫理とを一体化した  
「福祉事業経営倫理」が求められている。

かつしか社会福祉士会 会長 村尾俊明氏

ドキュメント・介護を語った熱い一日

「介護の倫理」を考える

<http://www.hhcs.co.jp/> 地域包括ケア・ケアマネジメント・デイサービス・サ高住・老人ホーム・病院・診療所

## 無縁社会で注目集まる遺品整理士認定協会の役割

遺族にとって親しい高齢者などの故人の遺品整理は、故人の記憶を心の中にとどめるだけでなく、遺品を整理することによって、よい思い出作りが出来る。そしてその整理は遺族が故人がいないつらいこの世界を生き延びるためにも、新しい世界の中で生きていく上でも大切な役割を果たしている。

しかし、我が国は、少子高齢化・核家族化・人口減少化の進展の中で、更には「無縁社会」化にも突入している。このため遺品等の引き取り手がない孤立死は全国で年間約32,000人(平成20年度)にも上り、都内では約5,000人の方が孤立死していると言われている。

「無縁社会」では、家族も親しい友人もいないために孤立死した方の遺品を整理する人もいない。しかし、残された故人の遺品がそのままではその人の「魂」も浮かばれない。そしてこうした状況下では、亡くなった方の遺品を整理する役割も変化を遂げて来ているのが現実である。

2011年の第35回モントリオール世界映画祭でイノベーション賞を受賞した映画「アントキノイノチ」(原作さだまさし)や原田泰造主演の同名のTBSのテレビドラマ化によって、この分野は一躍注目された。そのため水面下では2~3年前から専門業者も目に見えて増加して来ている。

一般社団法人遺品整理士認定協会(理事長:木村榮治 NPO 法人次世代育成ネットワーク機構理事長、TEL:0123-42-0528)は、こうしたエッセンシャルな遺品整理業への理解・認知を進めるとともに法令規制に応じた遺品整理業の専門家「遺品整理士」を育成して、現在、注目されている団体である。同協会の研修では特に心(気持ち)の部分を重要視しており、2年前から現在まで約6000人が受講している。また同協会発行の「簡単エンディングノート」は遺品から葬儀のことまでを本人が整理できてそれを民生委員や介護関係者に分かりやすく告知する内容となっている。